



第 25 図 KD:Cap Denison G:Gauss-Station
 KE:Cap Evans MM:MacMurdo-Sound
 WB:鯨湾 SH:Snow Hiel
 B:Belgica ED:Endurance Deutschland
 PC:Port Circoncision LJ:Laurie 島
 SG:Südgeorgien K:Kerguelen
 MJ:Macguarie 島

急に吹き始め、そして急に止む。高度 1000m 以上になることは極めて稀であるというのが特徴のようである。なお、この大吹雪は南極大陸周辺の各域には多少の差はあるが観測せられるようである。この大吹雪にの機構について、さきに Simpson (1919) は大陸の中央から外に向う気圧の波を仮定し、この気圧波によって地上の気圧分布が変り、地表面でひどく冷却された空気の強制上昇が起って雪が降り、この時に強い風が吹いて大吹雪になると考え、この上層にできる気圧の波は普通の高低気圧と違って閉じた等圧線をもってなく、一つの方向に回転してもいなく、放射状にひろがってゆくものであるとしており、この説は 1935 年に Loewe によっても確認されているが、しかし当時は資料が少いので決定的な結論には至っていなかった。なお、前記フランスの探検隊はその原因について次のごとく 2つの要因を述べている。

1) 大陸内部と比較的に気温の高い海岸域との間におこる非常に大きな温度差。これは地表面で強い SSE の風が吹いている時に行われた高層観測の資料にこの著しい温度差が現われていたことから要因の 1つにあげている。

2) 西から東に進行してくる低気圧の平均的な進路が海岸線より北側に存在していること。南極大陸の海岸域の下層においては平均的に気圧は相対的に高くなっているため、この低気圧の接近により南北の気圧傾度が急となり大陸台地からの斜面を降る下降風を強める。

以上の 2つの原因をあげており、この斜面を降る下降風の範囲は一般にあまり広くないようである。水平方向の広がりには海岸線から沖合 10km 以上、氷河台地の方へ 70km 以上になることは殆んどないと述べている。なお、このことは Mawson 探検隊によれば、どんな強い風が吹いている時にも、海岸線より沖合 6km まで船を避難させればその風を避けることができたといっていることと合せて興味ある問題である。(未完)

学会役員選挙開票状況

気象学会役員選挙の開票は去る 21 日に行われ、松本理事を始めとする管理委員諸氏は午後九時過ぎまでかかり、やっと開票を終えた。開票結果の正式発表は 6 月号で管理委員会からなされるはずであるが、編集部で入手した開票結果は次の通りである。(投票総数、752)

常任理事				地方理事			
当選	次点	次点	次点	当選	次点	次点	次点
高橋 浩一 郎	676	太田 正一	374	(北海道)	坂岸 昇	吉	54
山久 尚方	651	田井 正一	354	(東北)	山本 義	一	45
山久 尚方	632	佐井 亦誠	354	(関東)	山本 野	浩	35
山久 尚方	618	松本 貫上	342	(関西)	武野 素一	二	301
山久 尚方	575	松本 井須	329	(九州)	福井 英	郎	260
山久 尚方	527	須小 田	316		谷川 東	忠	204
山久 尚方	511	須小 沢	272		滑川 忠	平	198
山久 尚方	479				倉石 六	郎	74
山久 尚方	458	監事					
山久 尚方	414	当選	653				
山久 尚方	402	次点	413				
山久 尚方	401	北田 道男	326				
山久 尚方	376						